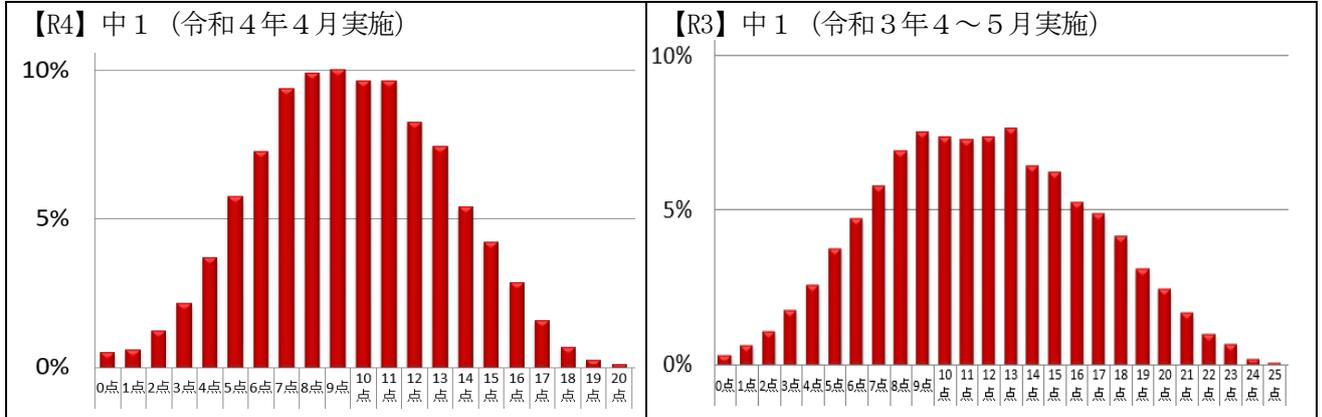


授業改善の手引 中学校第1学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



○ 問題数は昨年度から問題数を5問減らし20問、正答数の最頻値は9問、平均正答数は10問です。正答数の最頻値より高い正答の割合は50%、低い正答の割合は40%です。平均正答率は47.7%であり、正答数5問以下の人数の多さが課題です。

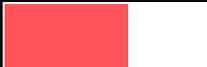
(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領域等	正答率 ()はR3新入生学調
[知識及び技能] (4問)	38% (59%)
[思考力, 判断力, 表現力等]「A話すこと・聞くこと」(5問)	67% (63%)
[思考力, 判断力, 表現力等]「B書くこと」(3問)	47% (25%)
[思考力, 判断力, 表現力等]「C読むこと」(8問)	42% (37%)

(3) 結果概要

- 小問ごとの正答率において、「1(1) 集めた材料から伝え合う内容を検討する」問題が81%、「3(2) 登場人物の心情をもとに表現の効果を読む」問題が59%で、比較的正確率の高い結果となりました。
- 領域等においては、[思考力, 判断力, 表現力等]「A話すこと・聞くこと」が67% (+4ポイント) 「B書くこと」が47% (+22ポイント) 「C読むこと」が42% (+5ポイント) と、全てにおいて昨年度を上回る結果となりました。
- 経年比較となっている「5① 資料を基に、自分の考えを書く」問題が、65% (+26ポイント) と昨年度を上回ったことから、複数の資料と関連づけて自分の考えを明確にさせる指導に成果が見られます。
- 領域等においては、[知識及び技能] が38%と昨年度を21ポイント下回りました。これは、日常の言語活動の中でどれだけ活用できるかをみる問題に対応できなかったことが要因として考えられます。
- 経年比較問題となっている小問ごとの正答率においては、「2(4) 文の構成について理解する。(修飾語)」問題が16% (-48ポイント)、「4(3) 文章の要旨を捉えて読む」問題が20% (-11ポイント) でそれぞれ下回り、指導の工夫が必要な状況にあります。

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択 No. (%)									
大問	中問	小問	通番号						1	2	3	4	5	6	9	0		
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答		無回答		
1	(1)	1	1	集めた材料から伝え合う内容を検討する。	第5・6年思判表A(1)ア	話聞			84	0	0	0	0	15	84	0	1	
		2	2	集めた材料から伝え合う内容を検討する。	第5・6年思判表A(1)ア	話聞			83	0	0	0	0	16	83	0	1	
		3	3	集めた材料から伝え合う内容を検討する。	第5・6年思判表A(1)ア	話聞			77	0	0	0	0	21	77	0	1	
	(2)	4	4	話の内容について資料の使い方を理解する。	第5・6年思判表A(1)ウ	話聞	活用		54	20	13	11	54	2	0	0	1	
	(3)	5	5	話の内容を捉え、疑問に思ったことをまとめる。	第5・6年思判表A(1)エ	話聞	活用		37	0	0	0	0	51	37	0	12	
2	(1)	6	6	日常使われる敬語を正しく使う。	第5・6年知技(1)キ	言葉			55	0	0	0	0	43	55	0	4	
	(2)	7	7	文脈に沿って、漢字を適切に使う。	第5・6年知技(1)ク	言葉	活用		29	0	0	0	0	47	29	0	24	
	(3)	8	8	熟語の構成を意味との関わりから理解する。	第5・6年知技(1)カ	言葉			52	52	4	23	18	2	0		1	
	(4)	9	9	文の構成について理解する。(修飾語)	第3・4年知技(1)カ	言葉	経年		16	57	11	13	16	3	0	0	1	
3	(1)	10	10	場面の描写と登場人物の様子を読む。	第5・6年思判表C(1)イ	読			30	0	0	0	0	48	30	0	23	
	(2)	11	11	登場人物の心情をもとに表現の効果を読む。	第5・6年思判表C(1)ウ	読	経年・活用		59	11	12	59	15	2	0	0	2	
	(3)	12	12	登場人物の心情を読む。	第5・6年思判表C(1)イ	読	経年・活用		37	0	0	0	0	46	37	0	19	
	(4)	13	13	表現の仕方を捉えて読む。	第5・6年思判表C(1)エ	読			49	6	27	49	15	1	0	0	4	
4	(1)	14	14	文章の内容を的確に押さえて読む。	第5・6年思判表C(1)ア	読			52	0	0	0	0	43	52	0	7	
	(2)	15	15	目的に応じて、必要な情報を捉えて読む。	第5・6年思判表C(1)ウ	読	活用		41	12	37	41	7	2	0	0	4	
	(3)	16	16	文章の要旨を捉えて読む。	第5・6年思判表C(1)ア	読	経年・活用		20	0	0	0	0	69	20	0	11	
	(4)	17	17	文章の構成を捉えて読む。	第5・6年思判表C(1)ア	読	経年		44	21	14	10	44	1	0	0	12	
5		18	18	資料を基に、自分の考えを書く。	第5・6年思判表B(1)ウ	書	経年		65	0	0	0	0	17	65	0	19	
		19	19	資料から読み取ったことを根拠にして書く。	第5・6年思判表B(1)ウ	書	経年・活用		29	0	0	0	0	50	29	0	23	
		20	20	段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。	第5・6年思判表B(1)イ	書			47	0	0	0	0	33	47	0	22	
全体正答率									48									

2 指導のポイント

(1) 話し手の目的を考えながら話の内容を捉え、自分の考えをまとめる学習を大切にしましょう。

ア 問題の概要

1 (3) 話の内容を捉え、疑問に思ったことをまとめる。

第5・6学年〔思考力、判断力、表現力等〕A「話すこと・聞くこと」(1)エ 正答率 37.1%

イ 誤答分析

この問題では、「緑のカーテン」が環境にやさしい理由についての具体的な説明を求める解答ではなく、自分が考えたよさや特徴を具体的に例示するといった誤答が多く見られました。これは、話し手の目的に応じて話の内容を捉えていなかったため、どういった情報を相手から引き出しアドバイスにつなげるかが明確でなかったことが原因と考えられます。

この問題では、話し手の目的に応じて聞き、考えをまとめる力が求められます。そのため、話の内容を十分に聞き取りながら考えを比較することや、聞き取ったこととの共通点や相違点を踏まえて自分の考えをまとめる力に課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点

(ア) 目的に応じて必要な内容を質問しながら聞き、話し手が伝えたいことの内容を捉えて自分の考えをもつことについては、小学校第3学年及び第4学年（「A 話すこと・聞くこと」の指導事項エ）で学習しています。このことは、中学校第1学年（「A 話すこと・聞くこと」の指導事項エ）の、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめる学習につながります。

(イ) 指導に当たっては、話し手が伝えたいことを踏まえて、自分が聞こうとする意図に応じてスピーチの内容を捉えることが大切です。例えば、相手のスピーチを聞く場合に、あらかじめ聞きたいことを整理して聞いたり、更には、聞き取った内容を自分の経験と結び付けて記録したり質問したりするなどの活動が考えられます。

(2) 実際の表現場面を意識させながら、修飾語の文中での係り受けの関係等を把握することができるよう学習過程を工夫しましょう。

ア 問題の概要

2 (4) 文の構成について理解する（修飾語）。

第3・4学年〔知識及び技能〕(1) 正答率 16%

イ 誤答分析

誤答を分析すると、57%の生徒が、1「仕事に」を選択していました。「将来」という修飾語が、被修飾語「もちたい」に対し、「いつもちたいのか（時期）」を詳しく説明していることをとらえさせる問題です。直後の1を選択している生徒が多いことから、文の中で離れた位置にある言葉と言葉の関係を捉えることを苦手としていることがわかります。

ウ 指導上の留意点

(ア) 文の構成について理解することについては、既に小学校第3学年及び第4学年（〔知識及び技能〕文や文章の指導事項カ）で学習しています。このことは、中学校第1学年（〔知識及び技能〕文や文章の指導事項エ）の、単語の類別について理解するという学習につながります。

(イ) 指導に当たっては、修飾と被修飾との関係だけではなく、主語と述語の関係、文の書き出しや文末表現など文の中での係り受けの関係等、文全体の構成を把握することが大切です。その際、〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」の構成の検討、「B書くこと」の構成の検討や推敲、〔C読むこと〕の「構造と内容の把握」の学習過程における言語活動との関連を図ると効果的です。言語活動を通じた学習過程の中で指導することにより、日常の言語生活に生きて働く「知識・技能」として身に付いていきます。

(3) 目的に応じて要旨をとらえ、分量や表現の仕方などに合わせてまとめる言語活動を位置付けましょう。

ア 問題の概要

4 (3) 文章の要旨を捉えて読む。

第5・6学年〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」(1)ア 正答率20%

イ 誤答分析

無解答率は11%で前年度より粘り強く記述する生徒が増えていることがわかります。一方、正答率は20%となっており、解答した記述内容に課題が見られました。誤答を分析すると、筆者の考えの中心となる「巢の後ろに下がる」という点には触れられているものの、それに加えて「他の兄弟にえさを譲っている」と記述している生徒が多く見られました。これは、「巢の後ろに下がる」要因を「兄弟にえさを譲るため」と誤って捉えていると考えられます。文中の「～見えますが」という叙述の中の逆接の助詞「が」に注目できていないことも考えられます。

この問題では、親鳥が短時間で均等にえさを与えることができる仕組みについて捉えるために必要な情報を的確に探し出す力が求められます。目的に応じて書き手の伝えたい内容を的確に押さえて要旨を捉える力に課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点

(ア) 事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することについては、小学校第5学年及び第6学年（「C読むこと」の指導事項ア）で学習しています。このことは、中学校第1学年（「C読むこと」の指導事項ア）の、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などとの関係を、叙述を基に捉え、要旨を把握する学習につながります。

(イ) 指導に当たっては、文章の構造を踏まえて、キーワードやキーセンテンスなどに留意して情報を整理し、正確に要旨を捉えられるようにすることが大切です。要旨をまとめる際には、〔知識及び技能〕の「指導事項ア（情報と情報の関係）」原因と結果との関係について理解すること、「指導事項エ（文や文章）」接続する語句の働きとの関連を図ることが効果的です。目的を明確にし、文章から必要な情報を取り出して解説する言語活動などを通して、生徒が主体的に要旨をまとめるような学習過程を工夫していきましょう。

(4) 複数の情報を比較したり関連付けたりしながら、自分の考えを明確にして書く学習を大切にしましょう。

ア 問題の概要

5 条件② 資料から読み取ったことを根拠にして書く。

第5・6学年〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」(1)ウ 正答率29%

イ 誤答分析

この問題では、複数の資料から適切な言葉や数値を用いて記述する力や、それらを関連付けて自分の考えを明確にする力が求められます。条件①の自分の考えを書くことの正答率が64.8%と前年度よりも上昇しているものの、条件②の考えを支える理由や根拠の記述に誤答や無解答が多く見られました。特に、資料Aで書かれているインターネットの負の面と、資料Bから読み取れる便利さを結び付けて記述することに課題があることがわかります。

ウ 指導上の留意点

(ア) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり、事実と感想、意見などを区別して書いたりなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについては、小学校第5学年及び第6学年（「B書くこと」の指導事項ウ）で学習しています。このことは、中学校第1学年（「B書くこと」の指導事項ウ）の、根拠を明確にししながら自分の考えが伝わる文章になるように工夫することの学習につながります。

(イ) 指導に当たっては、必要な情報を自ら探しながら自分の考えをまとめていくといった言語活動など、目的を明確にさせた活動を位置付けると効果的です。その際、「指導事項のア（題材の設定、情報の収集、内容の検討）」との関連を図り、複数の資料から集めた材料を観点に沿って比較、分類、関係付ける等の学習過程を踏まえることが大切です。例えば、自分の考えを支える根拠となる情報を付箋に書き出し、比較したりつなげたりする等の思考の可視化の工夫が考えられます。

